## 「2005 年日本国際博覧会に係る環境影響評価追跡調査(予測・評価)報告書(その 1)」の訂正について

平成 15 年 3 月に公表しました「2005 年日本国際博覧会に係る環境影響評価追跡調査(予測・評価)報告書(その 1)」の一部を以下のとおり訂正します。

頁     誤       19, 203     (2) 国等の環境保全施策 大気汚染に係る環境基準は表1 - 2 - 1 及び表1 - 2 - 2 に示すとお りである。     (2) 国等の環境保全施策 大気汚染に係る環境基準等は表1 - 2 - 1 及び表1 - 2 - 3 おりである。       27     【表1 - 2 - 8 中、機関出力の数値】	0
203 (2) 国等の環境保全施策 大気汚染に係る環境基準は表1 - 2 - 1及び表1 - 2 - 2に示すとおりである。  27 【表1 - 2 - 8 中、機関出力の数値】	
大気汚染に係る環境基準は表1 - 2 - 1及び表1 - 2 - 2に示すとおりである。  27 【表1 - 2 - 8 中、機関出力の数値】	
19である。	
27 【表1 - 2 - 8 中、機関出力の数値】	2 に示すと
【表1-2-8 中、機関出力の数値】	
パックホウ   0.8m3   169   0.138	
47  47  (修正>>表示の誤りによる □ 1-2-12 工事用集両の走行における予測地点 □ 1-2-12 工事用集両の走行における予測地点 □ 1-30,000	
図1-2-12 工事用車両の走行における予測地点   図1-2-12 工事用車両の走行における予測地点   尺例   子剤地点   ・長久手町長旅   ・豊田市八草町   ・徳田市八草町   ・徳田市八草町   ・徳田市八草町   ・徳田市石田町   ・一・・・工事用車両の走行ルート   1:50,000   10	
1.59,000	
(ク) 年平均値から日平均値の年間98%値等への変換 年平均値から日平均値の年間98%値又は2%除外値への変換は以下 の変換式を用いた。 a 二酸化窒素	1984
年平均値から日平均値の年間98%値又は2%除外値への変換は以下の変換式を用いた。       年平均値から日平均値の年間98%値又は2%除外値への変換式を用いた。         a 二酸化窒素       Y = a(・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
の変換式を用いた。       の変換式を用いた。         a 二酸化窒素       Y = a(・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
a 二酸化窒素	変換は以下
$Y = a(\cdot \cdot \cdot$	
Y = a(······	
[ NO2 ] R: 二酸化窒素の <u>工事用</u> 車両寄与の年平均値(ppm) [ NO2 ] R: 二酸化窒素の車両寄与の年平均値(ppm) 「 NO2 ] BG: ・・・・	
(出典)「道路環境影響評価の技術手法」(平成12年11月 (財)道路環境研究所) (出典)「道路環境影響評価の技術手法」(平成12年11月 (財)道路環境研究	听)
b 浮遊粒子状物質 b 浮遊粒子状物質	
Y = a (・・・・・・・・・         [ SPM ] R : 浮遊粒子状物質の       工事用       車両寄与の年平均値(mg/m3)         「 SPM ] BG : ・・・・・       [ SPM ] R : 浮遊粒子状物質の車両寄与の年平均値(mg/m3)         「 SPM ] BG : ・・・・	
(出典)「道路環境影響評価の技術手法」(平成12年11月 (財)道路環境研究所) (出典)「道路環境影響評価の技術手法」(平成12年11月 (財)道路環境研究	新)

<<削除>>記述の誤りによる 70 70 (7) 二酸化窒素 (ア)二酸化窒素 青少年公園西ターミナル等・・・・バックグラウンド濃度を加え 青少年公園西ターミナル等・・・・でバックグラウンド濃度を加 た環境濃度(二酸化窒素の年平均値)は0.017ppmと予測された。 えた環境濃度は0.017ppmと予測された。 また、海上ターミナル及び会場(海上地区)から発生する寄与濃度 また、海上ターミナル及び会場(海上地区)から発生する寄与濃度 が最大となる地点は会場(海上地区)南側敷地境界付近で、窒素酸化 が最大となる地点は会場(海上地区)南側敷地境界付近で、窒素酸化 物の最大濃度は 0.0032ppm と予測された。これを二酸化窒素に変換し 物の最大濃度は 0.0032ppm と予測された。これを二酸化窒素に変換し た上でバックグラウンド濃度を加えた環境濃度(二酸化窒素の年平均 た上でバックグラウンド濃度を加えた環境濃度は 0.014ppm と予測さ 値)は0.014ppmと予測された。 れた。 <<削除>>記述の誤りによる 223 223 (7) 二酸化窒素 (ア) 二酸化窒素 八草ターミナル・・・・バックグラウンド濃度を加えた環境濃度(二 八草ターミナル・・・・でバックグラウンド濃度を加えた環境濃 酸化窒素の年平均値)は 0.013ppm と予測された。 度は 0.013ppm と予測された。 258 <<修正>>計算諸元設定の誤りによる 258 八草ターミナル内のバスの走行による騒音の予測結果は図2-3-2 ハ草ターミナル内のバスの走行による騒音の予測結果は図2-3-2 に示すとおりである。等価騒音レベルの敷地境界における最大値は、図2 に示すとおりである。等価騒音レベルの敷地境界における最大値は、図2 - 3 - 2のとおり昼間 69dB ( 位置) と予測された。 - 3 - 2のとおり昼間 63dB( 位置)と予測された。 騒音レベル 敷地境界での 敷地境界での 最大騒音レベル 最大騒音レベル 69dB 図2-3-2 供用時における騒音レベルの予測結果(八草ターミナル) 図2-3-2 供用時における騒音レベルの予測結果(八草ターミナル) 長大騒音レベル出現地古

			\tag{\tag{\tag{\tag{\tag{\tag{\tag{
259		259	<<修正>>計算諸元設定の誤りによる
	(1) 環境影響の回避又は低減に係る評価		(1) 環境影響の回避又は低減に係る評価
	八草ターミナルから発生する騒音は、敷地境界において昼間の時間帯で		八草ターミナルから発生する騒音は、敷地境界において昼間の時間帯で
	最大 <u>69dB</u> と予測されている。		最大 <u>63dB</u> と予測されている。
274		274	<<削除>>記述の誤りによる
	アー予測時間帯		アー予測時間帯
	予測 <u>自</u> 時間帯はターミナルの <u>の</u> 最大となる時間帯(9時~10時)とした。		予測時間帯はターミナルの最大となる時間帯(9時~10時)とした。
276		276	<<修正>>計算諸元設定の誤りによる
	八草ターミナル内のバスの走行による振動の予測結果は図3-3-2		八草ターミナル内のバスの走行による振動の予測結果は図3-3-2
	に示すとおりである。振動レベルの敷地境界における最大値は、ピーク時		に示すとおりである。振動レベルの敷地境界における最大値は、ピーク時
	間帯で <u>60dB</u> ( 位置)と予測された。		間帯で <u>53dB</u> ( 位置)と予測された。
	振動レベル 数地境界での 最大振動レベル 60dB    図3-3-2 供用時における振動レベルの予測結果 (八草ターミナル)   凡例   最大振動レベル出現地点   1:10,000   400   5:20m   5:20m   5:20m   5:20m   5:20m   7:20m   7:20m		接動レベル   数地境界での   最大振動レベル   S3dB   日本   118,000   日本   118,000   日本   118,000   118
276		276	<<修正>>計算諸元設定の誤りによる
	(1) 環境影響の回避又は低減に係る評価		(1) 環境影響の回避又は低減に係る評価
	八草ターミナルから発生する振動は、敷地境界においてピーク時間帯で		八草ターミナルから発生する振動は、敷地境界においてピーク時間帯で
	最大 <u>60</u> dB と予測されている。		最大 53dB と予測されている。

300 300 <<修正>>記述の誤りによる 豊田市八草町において、青少年公園地区等の工事用車両の走行による年 豊田市八草町において、青少年公園地区等の工事用車両の走行による年 平均値の環境濃度(日平均値の2%値除外値)は 0.099mg/m³と予測され 平均値の環境濃度(日平均値の2%値除外値)は0.099mg/m³と予測されて ており、環境基準値を<u>上</u>回っている。浮遊粒子状物質の1時間値の環境濃 おり、環境基準値を下回っている。浮遊粒子状物質の1時間値の環境濃度 度は 0.220mg/m³ と予測されており、環境基準値を上回っている。 は 0.220mg/m³と予測されており、環境基準値を上回っている。 321 321 <<追加>>表示の誤りによる 会場及びターミナルと周辺河川との位置関係 会場及びターミナルと周辺河川との位置関係